

## 「第4次四日市市学校教育ビジョン(素案)」に係るパブリックコメント(意見募集)の結果について

「第4次四日市市学校教育ビジョン(素案)」に対する意見募集を行った結果は次の通りです。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

「第4次四日市市学校教育ビジョン(素案)」に対する意見募集を行った結果は次の通りです。  
 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

- ① 期 間 令和3年10月4日(月)～令和3年11月2日(火)
- ② 意見提出者数 7名
- ③ 意見提出件数 20件
- ④ 提出された意見の要旨と意見に対する教育委員会の考え方

No.	章	項目	頁	意見の内容	意見に対する考え方
1	第1章 四日市市が進める教育の基本的な考え方 四日市市の公立学校における働き方改革ver.2	取組1 仕事の積極的な効率化を図ります	12	P12取組1 緑色の項目の最後の行が見えなくなっています。	ご指摘の箇所を修正いたしました。
2	第2章 施策の内容 1 子どもにつけたい力	基本目標1-6 就学前教育の充実	22	四日市市では、幼稚園の管轄が保育幼稚園課になり、教育委員会から離れてしまったということですが、教育ビジョンの中に就学前教育として項目に入れていただいております。就学前教育は子どもが親の元を離れ、初めて社会の中に入っていく大事な一歩だと思っています。また、小学校に上がる前にいろんな経験をして人格形成にも大切な時期です。ぜひ、就学前教育にもお力添えいただければと思います。	幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであります。そのため、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を育てていくことが大切です。今後も幼稚園を所管することも未来部と教育委員会との連携を図りながら、就学前教育の充実に取り組んでまいります。

3	<p>第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力</p>	<p>基本目標2-2 道徳教育の充実</p>	24	<p>(四) 道徳教育の中身を考えたとき、教科化は教育行政の中心課題ではないでしょうか？戦前・戦中の「教育勅語復古」をねがう政治集団は、「郷土愛」を持ち出し愛国心教育を道徳教育のかなめにしようと教科化をもちだしました。道徳教育は解答のない自由な子供たちの意見・議論が基本だと思います。道徳教育に正解を示すとか、評価をして成績を付けることは出来ないと思いますが、四日市ではどうなんでしょうか？また、道徳教育には専門の教員免許状をもった教員が教えているのですか？「子供たちを再び戦場へやらない」が、「道徳の時間」を受け持つ教員の最低の仕事とわきまえてやられているのでしょうか？子どもは、憲法や教育基本法にも明記されている「主権者であり形成者」です。国や社会に自由に意見を述べられる形成者として、四日市市教育委員会がご尽力いただけることを念じております。</p>	<p>本市では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、主たる教材である教科用図書を活用した指導の充実に取り組んでおります。そして、子どもたちが他者と関わり、自分自身の考えを深めていく「考え、議論する道徳」を通して、物事を多面的・多角的にとらえ、主体的に考える中で、他者と共によりよく生きようとする意欲と態度を育成しています。また、今日的な課題や地域に根差した教材を道徳的価値と関連させるとともに、実生活や実社会とのかかわりを深めた様々な体験活動を取り入れた道徳教育を通じて、よりよく生きていくための資質・能力としての「道徳性」を育む取り組みを進めています。</p> <p>評価については、数値による評価は行わず、子どもたちの学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、子どもの学びや成長を「認め、励ます」ようにしています。</p> <p>道徳は、全ての学級担任が指導するということを踏まえて、今後も、より良い授業が行われるよう、市内の教員に向けた研修会や公開授業、情報発信の充実を図ります。</p>
---	----------------------------------	----------------------------	----	--	---

4	<p>第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力</p>	<p>基本目標2-3 読書活動の充実</p>	<p>p.27「読書活動の充実」(2)学校図書館環境の整備 について</p> <p>学びを深めるため、また心の栄養剤としての読書に関しては、どのような本を選ぶか、とりわけ小中学校段階ではナビゲーター役が必要です。図書館に常駐する専門職員の配置を求めます。合わせて、蔵書の充実のために十分な予算措置をお願いします。</p> <p>(読んだ本の内容や冊数を引き継ぐことに、あまり意義を感じられません。それぞれの興味関心に応じた本が読めること、感じたことをアウトプットする仕掛けを提供できることが次の段階につながるのではないのでしょうか)</p>	<p>読書活動の充実を図るために、学校図書館環境の整備については大変重要であると考えております。そのため、本市では、市内の学校59校に週1日以上、専門的な知識をもつ学校図書館司書を配置しております。さらに、全小・中学校に司書教諭を配置しており、学校図書館司書とともに、読書活動の充実を図っているところです。</p> <p>また、蔵書の充実について、本市の学校図書館の蔵書数は、学級数に応じて国が定めた蔵書数(図書標準という)に対し、小中学校ともに約115%となっており、標準冊数を超えて整備できております。今後も、予算措置を含めてさらに蔵書の充実を図ることができるよう進めてまいります。</p> <p>読んだ本の内容を引き継ぐことに関しては、今後、どのような内容の本を充実させていくのかを考える、一つの目安と考えます。また、冊数については、「一定時間読書を行っている子どもは、読書をほとんどしない子どもよりも、学力が高い」というデータが国の調査から出ています。このことに基づき、今後、発達段階に応じた様々な内容の本に読書を広げられる力をつけるためにも、読んだ本の内容等は、重要なデータであると考えています。</p> <p>さらに、ご意見にありますように、それぞれの興味関心に応じた本が読める取り組みや読んで感じたことなどをアウトプットする取り組みは重要であると考えます。本市では、図書館に置いてほしい本を子どもたちが選書する取り組みや、本を1分間で紹介する活動等の取り組みを行っている学校が多くあります。それらの学校の取り組みを、研修会等で各校にも広げていきたいと思っております。</p>
---	----------------------------------	----------------------------	--	--

5	<p>第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力</p>	<p>基本目標2-3 読書活動の充実</p>	25	<p>○25ページ 3読書活動の充実 (2)学校図書館環境整備において、学校図書館司書を配置しますとあるが、各学校に週1・2回の配置で、配置したと解釈するのではなく、週5日勤務する司書を配置してほしいと思います。週5日勤務することで、きめ細かい読書教育活動などをおこなうことができると思います。</p> <p>また、小学校で読んだ本の内容や冊数等を中学校へ引き継ぐ等とあるが、これは個人情報の保護の観点から考えて、適切でないと思います。小学生の時に何を読んだかや何冊読んだかなどは重要ではなく、年代(発達段階)に応じた学習課題に即した本を提供し、そこから子どもたちが何を学ぶかが大切です。ただ、小学校で読んだ内容や冊数を中学校へ引き継いでも意味がないように思います。</p>	<p>読書活動の充実を図るために、学校図書館環境の整備については大変重要であると考えております。そのため、本市では、市内の学校59校に週1日以上、専門的な知識をもつ学校図書館司書を配置しております。さらに、全小・中学校に司書教諭を配置しており、学校図書館司書とともに、読書活動の充実を図っているところです。今後も、地域の図書ボランティアの方にも学校に入っただけなど、各学校の実態に合わせて、きめ細かな取り組みを推進していきます。</p> <p>読んだ本の内容を引き継ぐことに関しては、今後、どのような内容の本を充実させていくのかを考える、一つの目安と考えます。また、冊数については、「一定時間読書を行っている子どもは、読書をほとんどしない子どもよりも、学力が高い」というデータが国の調査から出ています。このことに基づき、今後、発達段階に応じた様々な内容の本に読書を広げられる力をつけるためにも、読んだ本の内容等は、重要なデータであると考えています。このデータは、個人の読書記録を評価に活用するものではなく、児童生徒の読書の傾向をつかむことで、読書への興味や関心を広げるなど、日常の取組等に活かすためのものと考えております。</p> <p>また、ご意見にありますように、発達段階に応じた本を提供することは大変重要であると考えます。四日市市学校教育ビジョンに書かれていますように、読書を通じて興味や関心を広げ、探求する力をもった子どもを育成するために、今後も取り組みを進めてまいります。</p>
---	----------------------------------	----------------------------	----	---	---

6	第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力	基本目標2-3 読書活動の充実	<p>25</p> <p>&lt;施策の内容&gt; (2) 学校図書館環境の整備には、「全小・中学校に、専門的な知識をもつ学校図書館司書を配置」するとありますが、取り組みの改善と充実を求めます。</p> <p>本市の学校図書館への司書配置は、市からの委託業務として民間企業が担っており、外形的には司書の配置率は100%となっています。しかしながら、業務委託契約書(注1)から推測すると、司書は複数校兼務で、小・中学校59校への巡回勤務となると、1校に週6時間しか勤務できていないのです。「読書を通じて興味や関心を広げ、探求する力を持った子ども」を育成支援する、学校図書館司書の1校専任配置を要望します。さらに、民間への委託業務となっている学校司書の配置の状況について、市として把握されていることを明らかにすることを、併せて要望します。</p> <p>(注1)図書館業務委託契約書の仕様書 6 委託業務内容は、・業務期間は、「1校あたりの年間業務日数は週1日程度で平均45日以上」。 ・業務時間は、午前8時30分から午後5時までの間の6時間(休息・休憩時間を除く)。 ・巡回司書数は、各校の巡回司書数は15人以上で対応。</p>	<p>読書活動の充実を図るために、学校図書館環境の整備については大変重要であると考えております。そのため、本市では、市内の学校59校に週1日以上、専門的な知識をもつ学校図書館司書を配置しております。さらに、全小・中学校に司書教諭を配置しており、学校図書館司書とともに、読書活動の充実を図っているところですが、図書館司書以外にも、司書教諭・図書館ボランティア等とも連携し、図書館環境の整備を進めております。</p> <p>今後も、学校の規模に応じた学校図書館司書の配置を継続して行うとともに、子どもの興味・関心を喚起し、主体的に本に関わる取り組みを推進するなど、授業等と連携した内容を充実させることで、読書活動を充実させていきます。</p>
7	第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力	基本目標2-3 読書活動の充実	<p>25</p> <p>→p25 &lt;施策の内容&gt;(2)学校図書館環境の整備 ○全小・中学校に、専門的な知識をもつ学校図書館司書を配置します。とあります。現在の第3次教育ビジョンにも、同様に明記されていました。</p> <p>しかし、週に1回や2回、複数校かけもちの派遣司書では、長期的計画に立って図書館運営にかかわることができず、子どもたち一人ひとりへのきめ細かな対応が望めません。</p> <p>好奇心の強い、多感な小・中学生にこそ、学校図書館司書が1校一人いて、常に図書館で 子どもたちを待っているような環境が必要です。市としては、今回のビジョンに、そのような未来像をもって見えるのでしょうか？ だとしたら、この5年間でどれだけ配置をすすめる予定でしょうか？具体的な目標を明記してもらえると嬉しいです。学校図書館が専門の司書がいつもいて、子どもたちを継続的に把握してアドバイスしてくれる、そんな場所になれば学校全体が変わります。迂遠なようですが、「子どもが学びに向かう」ための早道が、「学校図書館づくり」ではないでしょうか？</p>	<p>読書活動の充実を図るために、学校図書館環境の整備については大変重要であると考えております。そのため、本市では、市内の学校59校に週1日以上、専門的な知識をもつ学校図書館司書を配置しております。さらに、全小・中学校に司書教諭を配置しており、学校図書館司書とともに、読書活動の充実を図っているところですが、また、地域の図書ボランティアの方にも学校に入ってもらいなど、各学校の実態に合わせた取り組みも行われております。今後も、図書館司書、司書教諭、図書館ボランティア等が連携したよりきめ細やかな取り組みを推進していきます。</p> <p>学校図書館司書の配置については、学校の規模に応じた図書館司書を、今後も継続して配置していきます。</p>

8	第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力	基本目標2-3 読書活動の充実	25	<p>→p25 &lt;施策の内容&gt;(2)学校図書館環境の整備</p> <p>○小学校で読んだ本の内容や冊数を中学校へ引き継ぐ・とあります。9年間を見据えることは大切かもしれませんが、小学校で読んだ本の内容まで、中学校へ引継ぐ必要があるでしょうか？子どものプライバシーの面から、違和感を覚えます。教育に活用できるというより、よけいな偏見や憶測を生じさせないでしょうか？子どもにとって、あまり生きやすい環境とはいえないように思います。「自由に読書」できる環境づくりのほうが重要かと思いますが、いかがでしょうか？</p>	<p>読んだ本の内容を引き継ぐことに関しては、今後、どのような内容の本を充実させていくのかを考える、一つの目安と考えます。また、冊数については、「一定時間読書を行っている子どもは、読書をほとんどしない子どもよりも、学力が高い」というデータが国の調査から出ています。このことに基づき、今後、発達段階に応じた様々な内容の本に読書を広げられる力をつけるためにも、読んだ本の内容等は、重要なデータであると考えています。このデータは、個人の読書記録を評価に活用するものではなく、児童生徒の読書の傾向をつかむことで読書への興味や関心を広げるなど、日常の取組等に活かすためのものと考えております。</p> <p>また、ご意見にありますように、「自由に読書できる」環境づくりは重要です。今後も、学校の規模に応じた図書館司書の配置を継続したり、各校の読書活動の取り組みを研修会等で広げたりする中で、読書を通じて興味や関心を広げ、探求する力をもった子どもを育成するための取り組みを進めてまいります。</p>
9	第2章 施策の内容 1 こどもにつけたい力	基本目標2-3 読書活動の充実	25	<p>「学校図書館」はこころとからだの健全な育成「読書活動の充実」に取り上げられていますが、「学力」「読解力」「ICT」の総合的な施設として(メディアセンター)、発展すべきと考えます。</p> <p>市としては、どのような「学校図書館」像を描いてみえるのでしょうか？具体的に明記していただけるとよりわかりやすくなるかと思えます。</p>	<p>ご意見にありますように、学校図書館には「読書センター」の機能のほかにも、「学校情報センター」としての機能があります。今後の学校図書館の姿として以下のように考えております。</p> <p>○書籍とタブレット端末等を組み合わせるなど、子どもたちが主体的に調べたり、対話したりしながら学びを深める場として学校図書館を活用し、情報の収集・選択・活用能力を育成する。</p> <p>○単元の導入で教科の内容にかかわるブックトークを図書館司書と連携して行うなど、学校図書館の本を活用し、学習への関心を高めるとともに、主体的に取り組む探究活動へつなげる。</p> <p>学校図書館の機能を計画的に利活用し、主体的・対話的・深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、子どもの自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実を図ってまいります。</p>

10	第2章 施策の内容 1 子どもにつけたい力	基本目標3-1 キャリア教育の充実	29	<p>P29キャリア教育について、コロナ禍のなか、行動が制限されむづかしいことも多くあると思いますが、自分自身を知って、将来の姿や夢に向かっていくことはとても大切だと思います。以前中学校でのキャリア教育のパネルディスカッションを見学させていただく機会がありました。こんなにしっかり 自分の将来について考えているのだと感心しました。実際に体験したり、話を聞くことで、将来の姿が見えてきて、目標に向かっていけるのだと思います。今の状況の中で、直接話を聞いたり、実際に体験してみるということが、むづかしい現状だと思いますが、体験し、感動したことで将来の目標にもつながっていくと思いますので、多く体験できるといいなと思っています。</p>	<p>キャリア教育を充実するためには、体験的な活動が重要であると考えております。ゲストティーチャーを招き、多様な年齢・立場の方の講話や社会や職業にかかわる様々な現場での体験を通して、勤労観・職業観の醸成や社会参画意識を高めるような取り組みを進めてまいります。</p> <p>ご意見いただきましたように、コロナ禍が収まり、対面での講演や体験ができるようになることを願っておりますが、現在も学校ではオンライン講演などICT機器を活用しながら、できる限りの活動を工夫しながら行っているところです。</p>
11	第2章 施策の内容 2 子どもの学びを支える学校づくり	基本目標5-2 学校業務の適正化	41	<p>「第4次四日市市学校教育ビジョン(素案)」に概ね賛同します。</p> <p>ただし、基本目標5 学校教育力の向上 学校業務の適正化めざす学校の姿 業務改善が適切になされ、教職員が意欲的に働くことができる学校においては、昨今マスメディアでも教職員の長時間勤務の実態を取り上げています。教育する立場の教員が疲弊するようでは、立派な学校教育ビジョンを打ち立てとしても絵に描いた餅にすぎません。施策の内容にありますように、業務分担、教育活動の見直しも早急に行い、校務及び教育活動のデジタル化推進にさらに一層強固に推し進めるべきです。それは四日市市だけでなく、三重県や文部科学省に対しても提出書類の削減やペーパーレスなど業務の高度化を進めるよう強く働き掛けること自体も時代の趨勢となっています。</p> <p>教員が児童や生徒に直接向き合える時間を作り上げるよう支援するのが、四日市市役所教育総務課や教育委員会の使命ではないでしょうか。積極的な改革をしていただくよう望むものです。</p>	<p>現在の学校では、教職員の長時間勤務の解消は全国的にも喫緊の課題となっており、本市においても例外ではありません。</p> <p>本市においては、令和2年1月に「四日市市の公立学校における働き方改革取組方針」を策定し、校務支援システムの活用、業務アシスタントの活用など、学校現場の業務改善に努めることで、教師が児童生徒に向き合うことができるよう取組を行ってきました。一方、国では、令和2年4月に「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律」(令和元年法律第72号)を施行し、教員の勤務時間の上限が法律で定められました。</p> <p>こうした流れを受け、本ビジョンでは、施策の重点の1つとして、四日市市の公立学校の働き方改革ver.2を打ち出しており、とりわけ、家庭との連絡手段のデジタル化や教職員1人1台タブレット端末導入に向けた準備など、学校業務のデジタル化を進めることで、業務改善を進めていく必要があると考えています。</p> <p>今後、本ビジョンに基づき、さらに学校業務の効率化を推進していくことで、教員が児童や生徒に直接向き合える時間を作ることができるよう、取組を進めてまいります。</p>
12	第4章資料編 2 四日市市総合計画		60	<p>総合計画の抜粋部分ですが、P60について</p> <p>本物に触れる機会をぜひ多く持ってほしいと思います。園児数が減少している現状で、園独自では予算的に招へいがむづかしいと思いますので、市の方でも補助をお願いします。</p>	<p>本市総合計画に関するご意見をいただきました。施策や事業の参考とするよう担当部局に伝えました。</p>

13	第4章資料編 2 四日市市総合計画		60	<p>正規の保育士が不足していると聞きます。保育者を目指している若い人が一般企業ではなく保育者への道を希望してもらえるように環境整備をお願いしたいです。その一つとして賃金体制を良くしていただくことで、有能な人を確保できるのではないかと思います。</p>	本市総合計画に関するご意見をいただきました。施策や事業の参考とするよう担当部局に伝えました。
14	第4章資料編 2 四日市市総合計画		60	<p>子育てと仕事の両立ができるようにというのは社会全体の課題でもあります。研修の場を通して企業の方たちに理解していただきたいと思います。</p>	本市総合計画に関するご意見をいただきました。施策や事業の参考とするよう担当部局に伝えました。
15	第4章資料編 2 四日市市総合計画		60	<p>教育はどれだけやっても終わりがなかなか見えません。また、成果がすぐに見えるものでもありません。それだけに先生たちも頑張りすぎてしまって体調を崩すことのないようにしてください。子どもにとって先生は、両親の次に信頼できる大好きな人なので、頑張りすぎないで頑張ってくださいと思います。</p>	本市総合計画に関するご意見をいただきました。施策や事業の参考とするよう担当部局に伝えました。
16	第4章資料編 2 四日市市総合計画		60	<p>「子育てするなら四日市」と言われていますが、ほかの市町村に住んでいる人が「四日市はいいね」「四日市がうらやましいわ」と思っていたような子どもにとっても、保護者にとっても子育てがしやすい、学ぶことがたのしい四日市市になってほしいと願っています。</p>	本市総合計画に関するご意見をいただきました。施策や事業の参考とするよう担当部局に伝えました。
17		全般		<p>学校教育ビジョンを読ませていただいて感じたことを書かせていただきます。細かく子どものことを考えていただいているのだと思いました。四日市市の子どもたちの未来を考えて、先生たちにご努力いただいていることありがたいと思います。</p> <p>社会の変化、子どもたちを取り巻く環境の変化、保護者の考え方の多様化など、教育の現場もむつかしくなっていると思いますが、先生たちに頑張ってくださいと思います。</p> <p>教育委員会の方が審議していただき深く考えていただいて第4次教育ビジョンを作成していただいているのに、いろいろ勝手なことを書かせていただきましたことおことわりいたします。</p>	<p>令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、小中学校においても臨時休業や自宅等によるオンライン学習、学校行事等の中止や規模縮小など、学校教育活動にも大きな影響がありました。また、令和2年度末には、全小中学校への1人1台学習者用タブレット端末の配備が完了し、授業や家庭学習の在り方を含め、子どもたちを取り巻く教育環境も変化してきています。</p> <p>また、さまざまな場面で多様化が進んできている中、第4次四日市市学校教育ビジョンにおいては、これからの社会を生き抜く子どもたちに力を付けていくことを目標に、保護者や地域の皆様と学校が協力・連携しながら、安全・安心な学校となるよう取組を進めていきたいと考えております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、本ビジョン及び教育施策に反映させていきたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。</p>

18		全般	<p>(一)「学校教育ビジョン策定の趣旨」にある教育基本法17条第2項に基づく～(以降、現基本法という)ですが、様々な経緯を経て改正された現基本法を無条件で容認されているということでしょうか？</p> <p>現基本法は、2006年(H,18)第1次安倍自公政権の時に賛成多数で国会にて採択、施行されました。それまでの歴史的経過はご承知の通り、学校教育に「教育勅語」を復活させたいと願っていた自民党中曽根内閣が始まりです。1984年、「臨時教育審議会」を立ち上げましたが改正には至らず、続いて自民党森喜朗内閣では2000年12月に「教育改革国民会議」を立ち上げ報告書では、「教育基本法の改正、道徳の教科化」を挙げていますが基本法の改正には、まだ至らず。森内閣の後を受けた自民党小泉純一郎内閣も「中央教育審議会」で基本法改正の答申を取りまとめが改正にはほど遠いことでした。しかし、2006年(H,18)第1次安倍自公政権は、歴代内閣がそうであったように「憲法改正」を視野に「教育基本法の改正」を強行採決したのです。</p> <p>歴史認識はこのくらいにして、改正教育基本法にはいくつかの改善が必要と思われるが、教育委員会の認識はいかがでしょうか？</p>	<p>教育基本法第17条2項では、地方の実情に応じながら、各自治体の判断により「教育に係る基本的な計画」を策定するよう努めなければならないとされています。</p> <p>そのため、本市では、四日市の子どもたちが、これからの社会を生き抜くために、全ての四日市の子どもの可能性を引き出し、多様な人々と共に変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていこうとする、「生きる力」「共に生きる力」をつけることができるよう学校教育ビジョンを策定し、教育振興基本計画として位置付けております。</p> <p>今後も、四日市市学校教育ビジョンに基づき、本市の教育に関する施策を総合的・体系的に進めてまいります。</p>
19		全般	<p>(二)「四日市市第三次教育教育ビジョンの計画」と前後して、2016年(H, 28)1月に安倍自公政権が「閣議決定」した「第5期科学技術基本計画」で初めてSociety5.0構想が登場しました。今回の四日市市第4次教育ビジョン(素案)には、この構想に沿った新教育プログラムも大きな柱のひとつとされています。そこで伺いたいのですが、安倍自公政権の経済政策が破綻(金融政策・財政政策・第3の矢の最後の国家戦略特区、女性活躍、働き方改革、生産性革命など)し、行き詰まっていた所へ財界・経済界が持ち出したSociety5.0構想。IT産業などのデジタル業界が、国家予算に照準を当てた構想。この構想を無条件で教育現場へ本気で持ち込むつもりなのか？教育の民間支配や介入が簡単にできる道筋を、教育委員会が付けることになるSociety5.0構想によるデジタル化は、教材の負担・教員の研修増加による長時間労働・子供の学びの格差など、またデジタル化の教育プログラムなどはIT産業への委託化により、民間業者が利益を得る格好の場とかさないのか？お伺いしたい。</p> <p>文部科学省の新学習指導要領では、「主体的、対話的な深い学び」が強調されアクティブラーニングが推奨されているが、子供たちはタブレット端末やPCを前にしてAI(民間業者が作成)が提供する学習プログラムを能力に応じて単独で取り組む学習が予想され、「対話的学び」とはかけ離れた「学習の個別化」や「自己責任」が押し付けられる教育へ向かうのではないかと危惧しますがどうですか？</p>	<p>第3次四日市市学校教育ビジョンの計画期間においては、少子高齢化の進行、グローバル化の進展、共生社会の実現に向けた取組等をはじめ、AIやIoTを活用した技術革新、超スマート社会(Society5.0)の実現に向けた取組、持続可能な社会を実現するための開発目標(SDGs)に対する取り組み等の新たな動きがありました。</p> <p>Society5.0構想においては、デジタル化により、教員の働き方改革やICT環境整備による児童生徒への個別最適な学び、協働的な学びの実現、また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員などと連携・協働した取組などを通して、学びの基盤を固めることが求められています。</p> <p>本ビジョンでは、本市の児童生徒全員の可能性を引き出すべく、学習の個性化、指導の個別化を図ることで、児童生徒が自己調整しながら、学習を進めていく力をつけるとともに、協働的な学びにおいて子どもたち同士、地域の方々などの多様な他者と協働しながら、社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成したいと考えています。このように、児童生徒一人一人に責任が押し付けられることなく、対話的な学びと学習の個別化が一体となった教育を進めていきたいと考えており、必要に応じてICT環境の整備を進めてまいります。</p>

20		全般	<p>(三) Society5.0構想と切り離せないGIGAスクール構想について伺います。</p> <p>こう見てくると(上記の記述)四日市市の教育政策のプラットフォームは、文科省の新学習指導要領ではなく確実に「Society5.0構想が望む教育」へ変化しているのではないかと。2020年10月、中教審が初等中等教育分科会でまとめた「令和の日本型学校教育の構築を目指して」では、「学校が、学習指導だけではなく全人的成長を促す生活指導、居場所などの福祉的機能も担う」などがガイドライン化されている。安倍自公政権で成長戦略まで押し上げられたSociety5.0は、財界・経済界にとっては「将来的生産性向上に貢献する人材の育成と当面の企業利潤」を担保できるとして大歓迎である。公教育としての学校は子供たちを何処へ向かわそうとしているのか？第4次教育ビジョンでは、はっきり見えてこない。</p> <p>2019年12月に公表されたGIGAスクール構想が、「教育条件整備だからいいのでは」といった短絡的議論では、到底理解されない子供たちにも「学びの楽しさ」を享受させられないだろうと確信するものです。</p>	<p>四日市市GIGAスクール構想のもと、これからの予測困難な時代を生き、「夢と志をもち、未来を創るよっかいちの子ども」を育てるため、「情報活用能力」を基盤として、生涯にわたって自ら学び続け、他者と協働して未知の課題を解決できる基本的な資質・能力を育てていきたいと考えています。</p> <p>教育条件整備という観点からは、国のGIGAスクール構想によるICTの急速な整備により、本市においても児童生徒1人1台学習者用タブレット端末の配備が完了し、また、高速大容量通信環境の整備についても検討を進めているところです。</p> <p>新学習指導要領の実施に伴い、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、これまで重点的に取り組んできた問題解決能力向上を踏まえた授業づくりに加え、教科等の学習においてICT機器の効果的な活用や言語活動の充実を図っていくことで、子どもたちが学ぶ楽しさを与えることができるよう取組を進めてまいります。</p>
----	--	----	---	---